

部局URAによる国際活動支援



京都大学では各部局において長い歴史の中で連綿と続けられ、その教育研究分野独自の特色ある国際交流活動が多数存在しています。京都大学には8つの部局URA室があり、どのような国際活動を行うかは、各部局(地区)の研究者の活動や、部局がURAに対して望むことによって異なります。本ポスターでは、京都大学の部局URAの中でも比較的活発な南西地区と宇治地区の国際支援活動について紹介いたします。



京都大学 南西地区URA岡野恵子、宇治地区URA吉岡佐知子

京都大学の国際戦略

京都大学は「2 by 2020 (国際化の指標を2020年度までに2倍)」戦略を掲げ、真の世界トップレベル大学としての地位の確立を目指している。

基本目標 / 施策・数値目標 / Strategic Measures and Numerical Targets

～3つの基本目標達成のため、優先的に取り進める施策～

重点施策
Priority Measures

- 1 学生・教員・職員国際化**
Internationalization of Students, Faculty, and Staff
京都大学は国際化を推進する上で、教員の国際化を最も重要な課題として取り組んでいます。学生・教員・職員ともに、海外での研究・教育・業務経験を通じて国際化を推進し、国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 2 大学ランキングの向上**
Improvement of Position in the World University Rankings
世界主要な大学ランキングの向上は、研究・教育・業務の国際化を推進し、国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 3 インフラの整備**
Support for Infrastructure for Internationalization
国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 4 交流協定締結数の拡大**
Increase in Number of Academic Cooperation Agreements
国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 5 海外大学・研究機関・企業との連携強化**
Strengthened Academic, Research Institution, and Corporate Cooperation
国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 6 海外関係者の充実**
Enhance Academic Associates Overseas
国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 7 危機管理体制の支援**
Enhance the Risk Management System
国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。
- 8 組織体制の整備・強化**
Strengthen the Structure for Promoting the International Strategy
国際化を推進する上で重要な役割を果たすことを目指しています。

学内の各部局では従来よりGCOE等による学生や研究者の交流等において多くの成果が上がっており、このような取り組みが持続され発展していくことが全学的に期待されている。部局はその多様性を維持しつつ、大学と一体感を持ち国際戦略を推進している。

宇治地区URA室について

宇治市に位置する京都大学・宇治キャンパスは定員内教員数だけで369名の規模になる京都大学のSatellite Campusの1つです。宇治地区URA室ではそのうち、化学研究所、防災研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所の4研究所の活動を3名のURAと事務部URA掛の2名で支援しています。世界トップクラスの大型施設、設備をもつ生存圏研究所とエネルギー理工学研究所、海外からの注目が高い研究を続ける化学研究所と防災研究所の活動を支援するため、宇治地区URA室では国際的な支援活動にも尽力しています。

平成24年度予算額 (単位: 千円)

区分	化学研究所	エネルギー理工学研究所	生存圏研究所	防災研究所
受託研究・共同研究費	781,970	381,307	532,001	872,859
寄附金	66,880	21,250	18,842	133,264
科学研究費助成事業	569,040	166,311	200,270	286,211
その他の補助金	113,702	151,724	65,415	580,304
計	1,531,592	720,612	816,528	1,872,638

南西地区URA室について

南西地区は京都大学吉田キャンパスの「南西」端に位置し、ウイルス研究所、再生医科学研究所、iPS細胞研究所、薬学研・宥科薬学部、アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア研究所、地域研究統合情報センター、アフリカ地域研究資料センター、こころの未来研究センター、の9部局を4名(内シニア1名)で担当しています。教員数は、特定研究員まで含めると352名となります。

南西地区URA室が担当する地域研究4部局(アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア研究所、地域研究統合情報センター、アフリカ地域研究資料センター)は、そもそも外国の地域研究をする研究機関であり、所属研究者ほぼ全員が国際的な仕事をされています。従って、これに関わる全ての支援業務が国際活動であるといえます。しかも、そのほとんどはアジア・アフリカの発展途上国なので、たとえばイスラムの風習や、アフリカ人の気質など、異文化を幅広く公正に理解するように心がけています。

南西地区の支援活動

仕事がどのように降ってくるか
研究者個人/研究科からの個別タスクまたはプロジェクト依頼、事務部が研究者から受けたプロジェクト依頼への共同取り組みまたは一部引き受け依頼、事務からの直接依頼など。本部URA組織や他部局URAからの協働依頼、シニアURAの個人的な繋がりからのMOU申し込みなどもありました。

各業務について
国際シンポジウム開催支援
資金(公募)探しと応募支援、招聘者との連絡調整、会場・人員手配(大規模の場合は丸投げする業者探し)、抄録作成支援(原稿依頼・確保・校正など)、受付など招聘者対応
外国人研究者対応
査証取得支援、受け入れ時学内・学外(住居その他手配)手続き支援、帰国に係る諸手続き支援
MOU締結支援
覚書作成や調印式に向けて関係各部署間の連絡調整
国際プロジェクト公募への申請支援
JSTさくらサイエンスプログラム、研究拠点形成事業など
海外からの研究資金受け入れ
外国企業や研究所との共同研究契約締結支援(相手方との連絡体制構築および経理・法務との連携により、研究者・経理・法務の負担軽減)
経理課によるサブアワード受け入れ支援
PI側担当者との連絡、契約書その他提出書類内容チェックと作成支援、インボイス作成支援、応募書類チェック
英語化対応
事務書類やウェブサイト・掲示板の文面英訳、英語論文校正、スピーチ原稿などの英訳、研究所の外部評価のためのプレゼンにおける司会調査
海外研究者・研究機関についての情報収集・まとめ、調査旅行準備、海外JSPSオフィス訪問
おまけ
海外URA大会への参加

「部局URAとして」やらなければならないことではありませんが、日本のURAのプレセンスを高めたい、先行する海外の実務について知り、その当事者と直接話すため、積極的に参加してきました。その副産物として、NCURA機関紙への寄稿を依頼されたり、SRAIのニュースレターでご紹介いただくことができました。そうしたつながりを生かしながらこれからも活動していきたいですし、また周りの方々にもそれを広げていきたいと考えています。

宇治地区の支援活動

支援している国際交流事業

事業名	FA	相手国	期間	支給総額
戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム	JSPS	各分野の先進国	3年	5000万円/年
Core-to-Core Program 研究拠点形成事業	JSPS	A. 欧米と中興国から複数国 B. アジア・アフリカ地域の開発途上国	A. 5年 B. 3年	A. 2000万円/年 B. 800万円/年
SATREPS 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム	JST/JICA	開発途上国	3~5年	8000万~1億円程度/年 (うちJST 3600万円程度/年)
二国間交流事業	JSPS	指定された国 国交のある国	A. 3年 B. 2年	A. 500万円/年 B. 250万円/年

支援している国際共同事業

事業名	日本側FA	相手側FA	期間	日本側経費
PIRE 国際共同研究教育パートナーシッププログラム (国際共同研究事業)	JSPS	NSF アメリカ	5年	1000万円/年
Horizon2020	JST	EU	7年の間で事業によって異なる	事業によって異なる。EU側は全体(2014-2020年)で€80 billion
SICORP 国際科学技術共同研究推進事業(戦略的国家共同研究プログラム)	JST	NSF アメリカ	3年	2300万円/年
Big Data and Disaster Management (BDD)	JST	NSF アメリカ	3年	2300万円/年
SICP 戦略的国際科学技術協力推進事業	JST	アメリカNSF、フランスANR、タイNSTDA、フィリピンDOST	半年~1年	100~300万円
国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID)	JST	アメリカNSF、フランスANR、タイNSTDA、フィリピンDOST	1~5年	700~5000万円
Belmont Forum	JST	2国以上のFA	1~5年	700~5000万円

国際シンポジウム開催支援
準備と調整
招聘者との連絡調整、抄録編集(原稿依頼・確保・校正・編集)、ポスター作成、会場での各種サイン作成
当日の海外招聘者対応
講演謝金における税法上の規定についての説明、旅費の受け渡しと受領サインの依頼、構内と他キャンパスへの移動案内

外国人研究者の活動支援
英語による科研費申請の支援、宇治キャンパスで開催する外国人研究者向けサイクルフェアでの司会、セミナー等での司会、調印式での司会、海外来訪者の施設見学の調整、京都大学と宇治キャンパスの紹介

契約関係
MOU締結支援
条項についての説明と変更、京都大学の意向の説明、締結に向けての連絡調整
法律・条約上の確認
安全保障条約についての確認、機材の受け取りに関する相談と調整、GPS利用の研究のための規程の確認、部局のデータ利用許諾書(英文)の作成
その他
英米の研究機関の研究支援組織の訪問、海外JICAオフィス訪問、京都大学ASEAN拠点開所シンポジウムへのstaff参加

まとめ

- これまでの業務に対する感想
視野と経験の拡充 URAにならなかつたら会えなかつたような人々に会え、用務でないといけないような国や機関にも行った。アジア・アフリカの国々、南米、イスラム教圏のことなどをなにも知らなかつたが、研究者に同行したり、国際シンポジウムの開催に関わることで、途上国の実態を自力で見聞できた。
同僚に感謝 特に国際シンポジウムに係る業務では人手が必要。そういうときにみんなが助けてくれる、安心感がpriceless。日ごろから教えてもらうことも多く、研鑽しあえるpotentialな同僚たちに感謝。
- これから身に付けていきたいもの
人件費を出せる予算
→前職(プロ家庭教師)時代に私費留学を手助けしたり、国際コースに進学させた教え子が数人いるので国際シンポジウムの当日など、若者の手が多く要るときに雇いたい。
英語の敬語
→私は小学校低学年までしか英語圏の現地校に通っていない。用務でMC原稿や国際公的機関に提出する書類を作成するため、宇治キャンパスに来てから英語の敬語を学びなおした。

